



HP Remote Graphics ソフトウェア ライセンス ガイド

© Copyright 2010, 2011 Hewlett-Packard
Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の限定的保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術のあるいは校正上の誤り、省略に対しては、責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoft および Windows は、米国
Microsoft Corporation の米国およびその他の
の国における登録商標です。

製品番号 : 590313-293

改訂第 2 版 : 2011 年 10 月

目次

1 はじめに	1
RGS のライセンス登録の概要	1
RGS ライセンスの種類	2
RGS 製品	3
リリースのバージョン番号	4
リリースのバージョン日付	5
RGS ライセンス ポリシー	5
質問またはサポートに関するお問い合わせ	6
2 HP RGS Trial Edition	7
HP RGS Trial Edition のダウンロードおよびインストール	7
3 RGS 製品およびそのライセンス キーの取得	10
4 HP RGS ローカル ライセンス製品	13
RGS ローカル ライセンス キーの取得	13
ローカル ライセンス キー ファイルのインストール	14
ローカル ライセンス キー ファイルにアクセスする Windows の RGS Sender の構成	14
RGS Sender のインストールするときの構成	14
Sender インストール後の構成	16
ローカル ライセンス キー ファイルにアクセスする Linux の RGS Sender の構成	17
5 HP RGS フローディング ライセンス製品	19
RGS フローディング ライセンス キーの取得	20
FLEXnet ライセンス サーバーのインストールおよび構成	22
ライセンス サーバーをインストールする前に	22
Windows のライセンス サーバーのインストール	23
ライセンス サーバーの構成	27
RGS フローディング ライセンスのアクセス	28
フローディング ライセンスにアクセスする Windows の RGS Sender の構成	28
フローディング ライセンスにアクセスする Linux の RGS Sender の構成	30

付録 A 補足ライセンス情報	31
RGS バージョン日付の参照	31
RGS Sender のログ	31
付録 B RGS 用 FlexLM ライセンス サーバーのレジストリ参照のクリーニング	32
FlexLM ライセンス サーバー キー	32

図のリスト

図 1-1 RGS のダウンロード/インストール/ライセンス登録のタイムライン	1
図 1-2 RGS Sender がライセンス登録されていない場合に生成されるダイアログ	2
図 1-3 RGS で使用されるバージョン番号	4
図 1-4 RGS Sender のバージョン情報ダイアログに表示されるビルド日付	5
図 2-1 Trial Edition ライセンス キーのダウンロード	8
図 3-1 電子配布	11
図 4-1 HP RGS Desktop 製品のローカル ライセンス キーの取得	13
図 4-2 RGS Sender がこのコンピューターのライセンス キー ファイルにアクセスするよう指定するダイアログ	15
図 4-3 ローカル ライセンス キー ファイルの場所と名前の入力に使用するダイアログ	15
図 4-4 システム変数 LM_LICENSE_FILE の設定	17
図 5-1 RGS のインストールおよびライセンス取得のための手順	19
図 5-2 フローティング ライセンス キーの取得	21
図 5-3 FLEXnet ライセンス サーバーに関する Windows プロセス	23
図 5-4 installs コマンドの例	24
図 5-5 サービスのプロパティを示すダイアログは、ライセンス サーバーの起動および停止に使用できる	25
図 5-6 サービス コントロール コマンドを使用したライセンス サーバーの起動および停止	26
図 5-7 LMTOOLS インタフェース	27
図 5-8 フローティング ライセンスがライセンス サーバーから取得されるように指定するダイアログ	29
図 5-9 ライセンス サーバーのホスト名およびポート番号（オプション）を入力するダイアログ	29
図 5-10 システム変数 LM_LICENSE_FILE の設定	30

1 はじめに

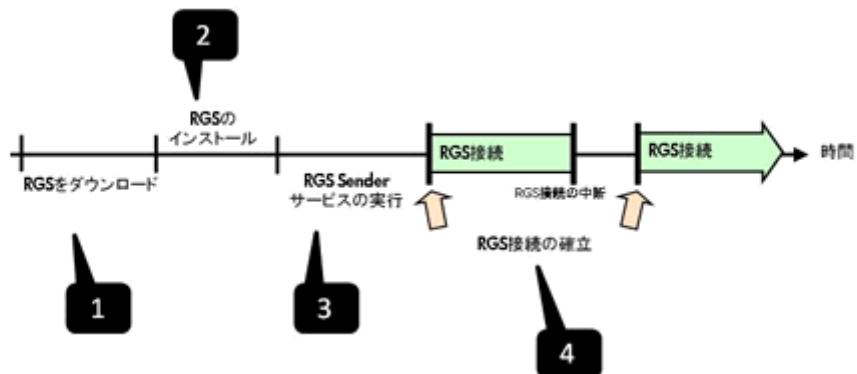
このガイドでは、HP Remote Graphics ソフトウェア (RGS) バージョン 5.4.7 以降のライセンス登録について説明します。RGS ライセンス登録は RGS Sender にのみ適用されます。RGS Receiver は無償でダウンロードでき、さまざまなコンピューターにインストールして使用できます。したがって、RGS ライセンス登録についてのすべての説明は、RGS Sender のみを対象としています。

 **注記：** RGS について詳しくは、http://www.hp.com/support/rgs_manuals/ (英語サイト) から入手できる『HP Remote Graphics ソフトウェア ユーザー ガイド』を参照してください。この Web サイトからは、このライセンス ガイドの最新バージョンも入手できます。

RGS のライセンス登録の概要

RGS Sender のライセンス登録は、RGS を購入したときに HP から提供されるライセンス キーに基づいて行われます。ライセンス キーは、ライセンス キー ファイルと呼ばれるファイルに保存され、RGS 接続が確立されるたびにチェックされます。[1 ページの図 1-1 「RGS のダウンロード/インストール/ライセンス登録のタイムライン」](#)に示すように、ライセンス キー ファイルがない場合でも、RGS Sender をダウンロード、インストール、および実行して接続を確認できますが、使用が制限されていることを表すダイアログ ボックスが常に表示されます。なお、図中の番号部分については、図の下のそれぞれの番号の説明を参照してください。

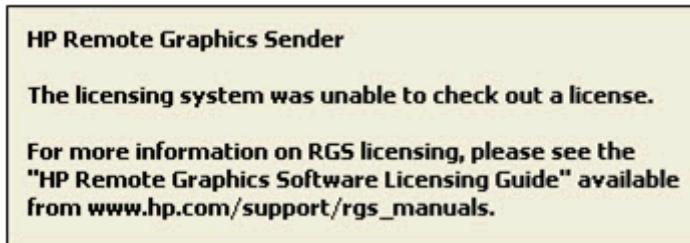
図 1-1 RGS のダウンロード/インストール/ライセンス登録のタイムライン



1. ライセンス キー ファイルがない場合でも、RGS は <http://www.hp.com/go/rgs/> (英語サイト) からダウンロードできます。
2. RGS Sender および RGS Receiver は、ライセンス キー ファイルなしにインストールできます。ただし、Sender をインストールするときには、使用するライセンス ファイルを確認するメッセージが表示されます。
3. 初期設定の RGS Sender のインストールでは、必ずブート シーケンス中に Sender の実行が開始されます。ライセンス キー ファイルは必要ありません。
4. ライセンス キー ファイルは RGS 接続が確立されるたびにチェックされます。ライセンス キー ファイルが有効な場合は、RGS が通常どおり実行されます。ライセンス キー ファイルが存在しないか、または無効の場合でも、リモート デスクトップの表示および対話操作を行うこ

とができますが、表示中のウィンドウには [2 ページの図 1-2 「RGS Sender がライセンス登録されていない場合に生成されるダイアログ」](#) に示すダイアログが表示されます。

図 1-2 RGS Sender がライセンス登録されていない場合に生成されるダイアログ



RGS ライセンスの種類

RGS Sender では、以下の 3 種類のライセンスがサポートされます。

- **トライアル ライセンス** : HP RGS Trial Edition (「Trial Edition」) には、60 日間の体験版ライセンスが用意されています。Trial Edition に付属のライセンス キー ファイルは RGS Sender システムに保存されます。
- **ローカル ライセンス** : ローカル ライセンスでは、RGS Sender を実行するシステムごとにライセンス ファイルが 1 つ必要になります。RGS Sender コンピューター 1 台ごとにライセンス ファイルを 1 つ購入し、そのライセンス ファイルをインストールする必要があります。
- **フローティング ライセンス** : フローティング ライセンスでは、ライセンス プールを購入します。これらの購入されたプールのライセンスは、RGS Receiver が RGS Sender への接続を試みたときに先着順で動的に割り当てられます。ライセンス用語を使用して表現すると、フローティング ライセンスは、RGS Sender への接続が確立されたときにチェックアウトされ、接続が終了したときにチェックインされます。

複数の RGS Receiver が単一の RGS Sender に接続されている場合 (コラボレーション セッションを実行している場合など)、RGS Sender は、最初に RGS 接続を確立するときにライセンスが 1 つだけ使用されます。

フローティング ライセンスを使用すると、たとえば、企業が購入したライセンス数が 75 だったとしても、75 人を超えるユーザーが同時に RGS 接続の確立を試みない限り、数百人のユーザーを持つユーザー コミュニティをサポートできます。上の説明のとおり、単一の RGS Sender 接続セッションには複数の Receiver 接続が含まれている場合があります。このため、ライセンス登録では、1 つの RGS Sender に接続される RGS Receiver の数に関係なく、確立できる **RGS Sender の同時接続セッション** が決定されます。

フローティング ライセンスを使用するにはライセンス サーバーが必要です。ライセンス サーバーは、RGS Sender を実行しているコンピューターのうちの 1 台にインストールするか、別のコンピューターにインストールできます。RGS 製品には、FLEXnet ライセンス サーバーをインストールするための Setup.exe ファイルが含まれています。インストール方法について詳しくは、[22 ページの「FLEXnet ライセンス サーバーのインストールおよび構成」](#) を参照してください。

RGS 製品

 **注記：** RGS 製品について詳しくは、RGS のホームページ、<http://www.hp.com/go/rgs/>（英語サイト）の『HP RGS Datasheet』（HP RGS データシート）と『HP RGS QuickSpec』（HP RGS クイックスペック）を参照してください。

HP では、以下の RGS 製品を提供しています。

- **HP RGS Trial Edition** : HP では、HP RGS Desktop の 60 日間体験版を無償で提供しています。ライセンスの購入は必要ありません。
- **HP RGS VDI ローカル ライセンス** : この RGS 製品は、HP または HP 以外の VMware VDI (Virtual Desktop Infrastructure) および HP Blade PC プラットフォーム上で実行できます。HP RGS VDI はローカル ライセンス ファイル キーを使用します。RGS を使用する仮想マシンまたは物理マシンごとに個別の HP RGS VDI ライセンスが必要です。
- **HP RGS Desktop ローカル ライセンス** : この RGS 製品は、ノートブック PC、デスクトップ PC、Mobile Workstation、Personal Workstation、HP Blade Workstation など、RGS をサポートしているすべてのプラットフォーム上で実行できます。また、この製品は、RGS VDI ライセンス キーによってサポートされている VMware VDI および HP Blade PC プラットフォーム上でも実行できます。RGS を使用する仮想マシンまたは物理マシンごとに個別の HP RGS Desktop ローカル ライセンスが必要です。
- **HP RGS Desktop フローティング ライセンス** : この RGS 製品は、ノートブック PC、デスクトップ PC、Mobile Workstation、Personal Workstation、HP Blade Workstation など、RGS をサポートしているすべてのプラットフォーム上で実行できます。また、この製品は、RGS VDI ライセンス キーによってサポートされている VMware VDI および HP Blade PC プラットフォーム上でも実行できます。HP RGS Desktop フローティング ライセンス キーを管理するにはライセンス サーバーが必要です。フローティング ライセンスについて詳しくは、[2 ページの「RGS ライセンスの種類」](#) を参照してください。

どの RGS 製品でも、中に含まれる RGS Sender および RGS Receiver は同じです。RGS Receiver はライセンス登録されないため、さまざまなコンピューターにインストールできます。

 **注記：** 60 日間体験版の **HP RGS Trial Edition** を除き、RGS 製品は、いったんインストールしてライセンス登録すれば、期限切れにはなりません。ユーザーは、購入したソフトウェア ライセンス キーを使用して、購入する時点で入手できる RGS の最新バージョンと、そのリリースの後続のマイナー/パッチ アップデートをインストールして実行できます。

将来公開されるプライマリ リリースおよびメジャー リリースによる機能強化を行うには、RGS Software Upgrade 製品を購入する必要があります。RGS の新しいメジャー リリースは、アップグレード価格で購入できます。アップグレード価格の適用を受けるには、HP RGS の対象バージョンのライセンスを所有している必要があります。アップグレード価格適用の対象は、HP RGS の 2 つ前までのメジャー バージョンです。たとえば、バージョン 5.4 と 5.3 の両方が、HP RGS の次のメジャー リリース (5.5) でアップグレード価格の対象となります。

RGS 製品について詳しくは、RGS のホームページ、<http://www.hp.com/go/rgs/>（英語サイト）の『HP Remote Graphics Software QuickSpec』を参照してください。

ホスト OS 仮想マシンおよび物理マシン環境で RGS をサポートするオペレーティング システムについて詳しくは、http://www.hp.com/support/rgs_manuals/（英語サイト）から入手できる最新の『RGS ユーザー ガイド』を参照してください。

注記： 電話によるサポート サービスでは、RGS ソフトウェアのインストールおよび構成についてのサポートを提供します。

システムが完全に機能し、標準の Microsoft Windows ソフトウェアがロードおよび実行されている必要があります。

ソフトウェア アップデートは HP Software Depot から入手できます。 <http://software.hp.com>（英語サイト）にアクセスし、[Product Category] の下で [Virtualization Software] → [Client Virtualization] の順に選択して、最新の HP Remote Graphics ソフトウェア リリースを探してください。

リリースのバージョン番号

リリースのバージョン番号（「バージョン番号」）には、[4 ページの図 1-3 「RGS で使用されるバージョン番号」](#) に示す 3 つの番号が含まれています。

1. プライマリ バージョン番号

- プライマリ リリースには、以前のプライマリ リリースとの相互運用性が保証されないような、大幅な変更が含まれています。たとえば、Sender バージョン 5.4.0 では、Receiver バージョン 4.2.0 との相互運用性は保証されません。

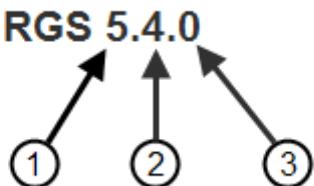
2. メジャー バージョン番号

- メジャー リリースでは、RGS の新しい特長および機能が導入されています。また、メジャー リリースには、以前のマイナー/パッチ リリースでの変更も含まれます（その変更が適用されます）。RGS 5.4.0 はメジャー リリースです。

3. マイナー バージョン/パッチ番号

- マイナー/パッチ リリースは、セキュリティ上の問題または機能上の重大な欠陥に対応する場合にのみ生成されます。マイナー/パッチ リリースでは、この番号がゼロ以外の数字になります。したがって、RGS 5.4.0 はマイナー/パッチ リリースではありません。RGS 5.4.1 となっている場合はマイナー/パッチ リリースです。

図 1-3 RGS で使用されるバージョン番号



注記： すべてのマイナー/パッチ リリースは、変更されたコンポーネントの種類にかかわらず、RGS 製品の全体が含まれた完全リリースとなります。たとえば、RGS Sender のセキュリティ修正を適用するために必要なマイナー/パッチ リリースには、(RGS Sender と RGS Receiver の両方を含む) RGS 製品全体が含まれます。

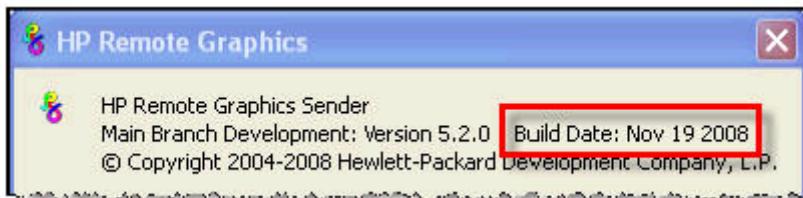
リリースのバージョン日付

RGS の各リリースには、バージョン番号の他に、RGS ライセンス登録メカニズムで使用されるリリースのバージョン日付（「バージョン日付」）が含まれています。たとえば、RGS 5.3.0 のバージョン日付は 2009 年 9 月 4 日であり、**2009.0904** (YYYY.MMDD) の形式で表されます。

通常、ユーザーが RGS 製品のバージョン日付を確認する必要はありません。RGS のバージョン日付にアクセスする必要がある典型的な例は、RGS のライセンス登録メカニズムのみです。ただし、ライセンス登録での問題のトラブルシューティングを支援するため、RGS には使用する RGS 製品のバージョン日付を表示する機能が用意されています。詳しくは、[31 ページの「補足ライセンス情報」](#) を参照してください。

 **注記：** システム トレイの[RGS Sender]メニューから[バージョン情報]を選択して表示できる **RGS のビルド日付**（詳しくは[5 ページの図 1-4 「RGS Sender のバージョン情報ダイアログに表示されるビルド日付](#)を参照）とバージョン日付を混同しないでください。ビルド日付は RGS ライセンスの登録メカニズムでは使用されません。

図 1-4 RGS Sender のバージョン情報ダイアログに表示されるビルド日付



RGS ライセンス ポリシー

RGS のバージョン日付は、ライセンス キー ファイルに組み込まれた 1 つ以上の日付と組み合わせることによって、以下の RGS ライセンス ポリシーを実装するために使用されます。

- RGS を購入すると、今後公開されるすべてのマイナー/パッチ リリースに無償でアップグレードできます。たとえば、RGS5.4.0 を購入すると、マイナー/パッチ リリース 5.4.1 が公開されたときに無償でアップグレードできます。

RGS マイナー/パッチ リリースが公開された場合でも、RGS のバージョン日付は変更されません。

RGS バージョン日付は、プライマリ リリースまたはメジャー リリースの場合に変更されます。

[5 ページの表 1-1 「RGS のバージョン番号およびバージョン日付の例」](#) を参照してください。

表 1-1 RGS のバージョン番号およびバージョン日付の例

バージョン番号	リリースの種類	バージョン日付
RGS 5.2.0	メジャー リリース	2008.1115
RGS 5.2.1	マイナー/パッチ リリース	2008.1115
RGS 5.2.2	マイナー/パッチ リリース	2008.1115
RGS 5.3.0	メジャー リリース	2009.0904
RGS 6.0 (今後開発予定)	プライマリ リリース	2012.0718

質問またはサポートに関するお問い合わせ

RGS のライセンス登録に関するご質問またはサポートについては、以下の表の該当する HP リージョナル ライセンス センターにお問い合わせください。

ヒューレット・パッカード・リージョナル・ライセンス・センター : http://licensing.hp.com/		
南北アメリカ 電話 : +1 (800) 538-1733 FAX : +1 (800) 541-2633 E メール : hplicense.na@hp.com 営業時間 : 月～金曜日 午前 6:00～午後 4:30 (太平洋標準時)	ヨーロッパ、中東、アフリカ 電話 : +353 (0)91 75 40 06 (アイルランド) FAX : +353 (0) 91 70 10 02 (アイルランド) E メール : codeword_europe@hp.com 営業時間 : 月～金曜日 午前 8:30～午後 5:30 (グリニッジ標準時)	アジア・太平洋諸国地域 電話 : +81 (426) 48-9312 (日本) 0120-42-1231 (フリーダイヤル、日本国内のみ) FAX : +81 (426) 48-6279 (日本) 0120-52-1231 (フリーダイヤル、日本国内のみ) + 800.2052.1231 (インド、インドネシア、ベトナム、および日本以外のアジア太平洋諸国からのフリーダイヤル) E メール : sw_codeword@hp.com 営業時間 : 月～金曜日、 午前 9:00～午後 5:30 (日本時間)

2 HP RGS Trial Edition

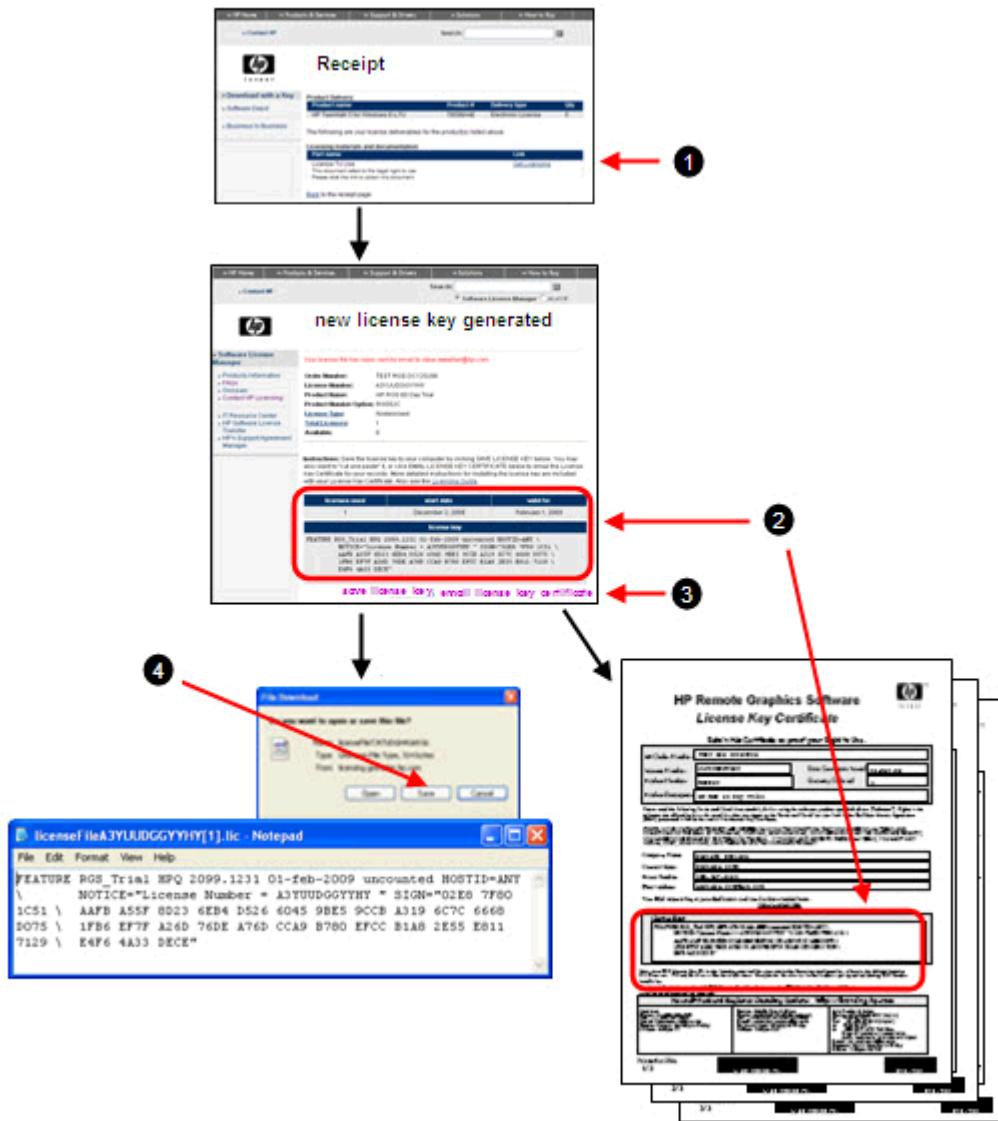
この章では、60 日間体験版の **HP RGS Trial Edition**（ライセンス キーを含む）をダウンロードおよびインストールする方法について説明します。Trial Edition の RGS Sender は、[6 ページの「質問またはサポートに関するお問い合わせ」](#)に記載されている、どのプラットフォームでも実行できます。

HP RGS Trial Edition のダウンロードおよびインストール

1. RGS のホームページ、<http://www.hp.com/go/rgs/>（英語サイト）にアクセスし、[HP RGS Trial Edition] リンクをクリックします。
2. [Receive for Trial]（Trial Edition の受信）リンクをクリックし、Trial Edition の登録ページを表示します。必要な情報を入力し、[Next]（次へ）をクリックします。
3. [Download software and license]（ソフトウェアおよびライセンスのダウンロード）ページには、[Order Confirmation]（購入確認）、[Get Software]（ソフトウェアの取得）、[Get Licensing]（ライセンスの取得）、および[Get Documentation]（ドキュメントの取得）タブがあります。
4. [Get Download]（ダウンロード）（[Order Confirmation] タブ）または[Get Software] タブを選択し、オペレーティング システムに適した RGS のバージョンを選択します。上部にあるボタンは Linux®用 TAR ファイルのダウンロードに使用でき、下部にあるボタンは Windows 用 ZIP ファイルのダウンロードに使用できます。ご使用の OS に対応するボタンをクリックし、ファイルを保存する場所を指定します。両方のオペレーティング システムを使用している場合（Sender コンピューターで Linux を使用し、Receiver コンピューターで Windows を使用している場合など）は、両方のファイルをダウンロードする必要があります。前に説明したように、RGS Sender のみ、ライセンス登録を行う必要があります。
5. 次に、[Get License]（ライセンスの取得）（[Order Confirmation] タブ）または[Get Licensing] タブを選択し、[Get License]を選択します。[8 ページの図 2-1 「Trial Edition ライセンス キーのダウンロード」](#)に示すように、[Receipt]（受信）Web ページが表示されます。[8 ページの図 2-1 「Trial Edition ライセンス キーのダウンロード」](#)に、Trial Edition ラ

イセンス キーをダウンロードして保存する一連の手順を示します。図中の番号部分については、図の下のそれぞれの番号の説明を参照してください。

図 2-1 Trial Edition ライセンス キーのダウンロード



Trial Edition ライセンス キーをダウンロードするには、以下の操作を行います。

1. [Get License] (ライセンスの取得) をクリックします。
2. RGS Trial Edition ライセンス キーの一覧が、この Web ページに表示されます。また、このライセンス キーの一覧は、『HP Remote Graphics Software License Key Certificate』(HP Remote Graphics ソフトウェアのライセンス キー証明書) にも記載されています。
3. 『HP Remote Graphics Software License Key Certificate』を電子メールで取得するには、このリンクをクリックします。この証明書を取得し、記録用に保管することをおすすめします。
4. RGS Trial Edition ライセンス キーをファイルに保存します。

6. Trial Edition ライセンス キーとローカル ライセンス キーのインストール手順は同じです。[14 ページの「ローカル ライセンス キー ファイルのインストール」](#)を参照してください。つまり、RGS をインストールするときに、[15 ページの図 4-2 「RGS Sender がこのコンピューターのライセンス キー ファイルにアクセスするよう指定するダイアログ」](#)に示されているダイアログで [**Install a license file on this system**] (このシステムにライセンス ファイルをインストールする) を選択します。次に、[15 ページの図 4-3 「ローカル ライセンス キー ファイルの場所と名前の入力に使用するダイアログ」](#)に示されているダイアログで、Trial Edition ライセンス キー ファイルの場所を指定します。

ライセンス キー ファイルは、Remote Graphics Sender のインストール ディレクトリとして指定される、以下の場所からコピーされます。

- 32 ビット版 Windows システムの場合 :

C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender

- 64 ビット版 Windows システムの場合 :

C:\Program Files (x86)\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender

- Linux システムの場合 :

/etc/opt/hpremote/rgsender

3 RGS 製品およびそのライセンス キーの取得

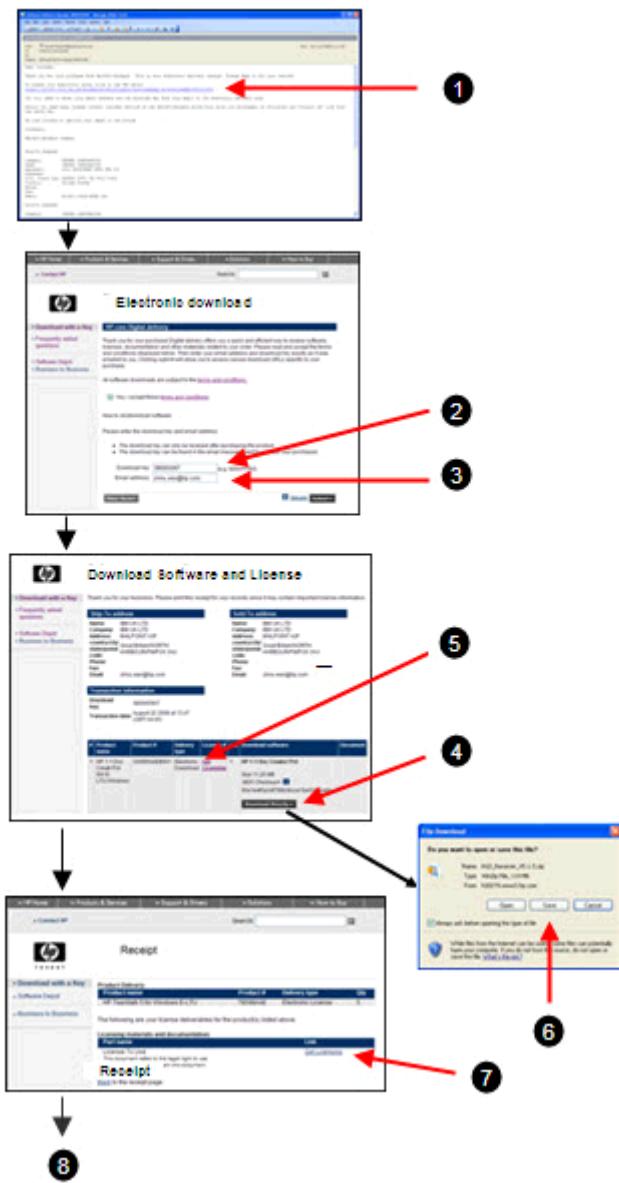
[3 ページの「RGS 製品」](#)に記載されている RGS 製品は、電子配布（HP からのダウンロード）で注文できます。この章では、RGS 製品の提供形態および必要な RGS ライセンス キーの取得方法について説明します。

 **注記：** RGS 製品の購入については、このガイドでは説明されていません。RGS の購入について詳しくは、RGS のホームページ、<http://www.hp.com/go/rgs/>（英語サイト）の『HP Remote Graphics Software QuickSpecs』を参照してください。

RGS 製品の提供形態やライセンス キーの取得方法を説明する前に、一般的な指針を以下に示します。

- RGS を電子配布により購入される場合は、ご利用可能な RGS ソフトウェアの最新のバージョンへのリンクをお知らせします。
- 1 つ以上のライセンス キーを生成した後は、[generate a new license key]（新規ライセンス キーの生成）Web ページの [Previously Generated License Keys]（以前に生成されたライセンス キー）リンクを使用して、以前に生成したライセンス キーを参照できます。ライセンス キー生成処理の終了後に、以前に生成したライセンス キーを参照するには、<http://licensing.hp.com/welcome.slm> にアクセスし、[ソフトウェア・ライセンス・マネージャへようこそ]Web ページでライセンス番号を入力します。

図 3-1 電子配布



電子配布によって RGS を取得する場合：下の説明の番号は、上の図の番号に対応しています。

1. 購入後に、RGS ダウンロード用 Web サイトの URL をお知らせする電子メールが HP から送信されます。この電子メールには、以下の手順で必要になる確認番号も記載されています。この URL をクリックして続行します。
2. 上記の電子メールに記載されている**[Confirmation Number]**（確認番号）を入力します。
3. ご連絡先の**電子メール アドレス**を入力し、**[Submit]**（送信）をクリックします。
4. **[Download Directly]**（直接ダウンロードする）をクリックして、RGS ソフトウェアをコンピューターにダウンロードします。この作業は、ライセンスキーを取得する前に行う必要があります。

 **注記：** 最初に RGS ソフトウェアをダウンロードしてから、ライセンス キーを取得することをおすすめします。最初に【Get Licensing】（ライセンスの取得）をクリックすると、その Web ページから移動することになるため、電子メールに記載された URL を使用して戻る必要があります。

5. 【Get Licensing】をクリックして、RGS ライセンス キーを取得する手順を開始します。この作業は、RGS をダウンロードした後に行う必要があります。
6. 【保存】をクリックして、RGS ファイルの保存場所を指定します。
7. 続行するには、【Get Licensing】をクリックします。
8. [13 ページの「RGS ローカル ライセンス キーの取得」](#) または [20 ページの「RGS フローティング ライセンス キーの取得」](#) に進みます。

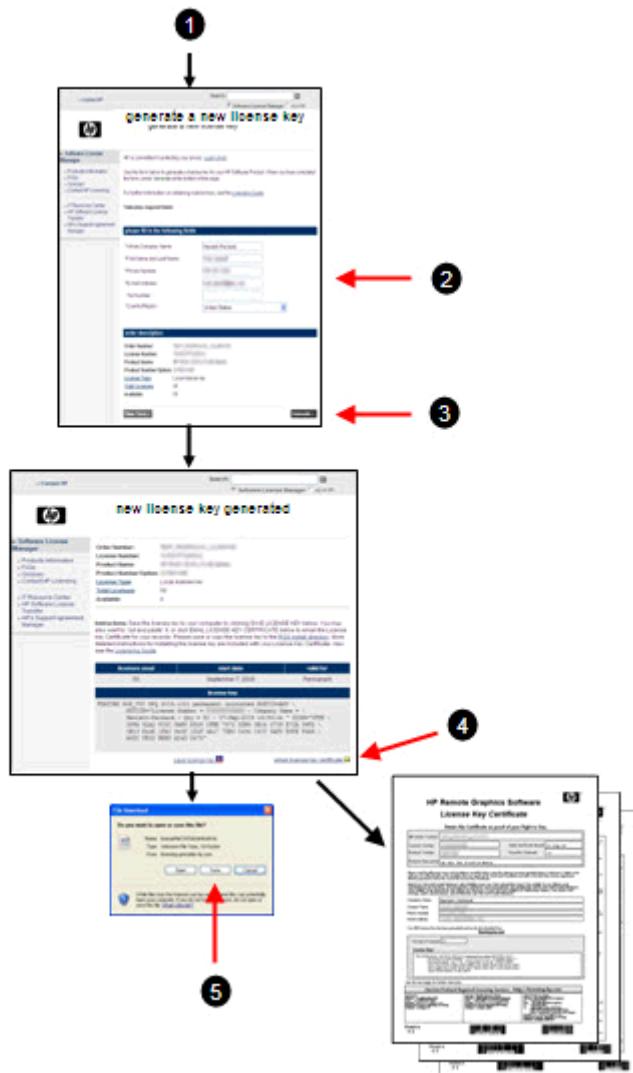
4 HP RGS ローカル ライセンス製品

バージョン 5.3.0 以降のすべての RGS 製品をローカル ライセンスで使用できます。これには、**HP RGS Trial Edition**、**HP RGS VDI**、および**HP RGS Desktop** が含まれます。

RGS ローカル ライセンス キーの取得

[13 ページの図 4-1 「HP RGS Desktop 製品のローカル ライセンス キーの取得」](#)に、RGS ローカル ライセンス キーを取得する手順を示します。この手順は、[10 ページの「RGS 製品およびそのライセンス キーの取得」](#)からの続きです。図中の番号部分については、図の下のそれぞれの番号の説明を参照してください。

図 4-1 HP RGS Desktop 製品のローカル ライセンス キーの取得



RGS ローカル ライセンス キーを取得するには、以下の操作を行います。

1. [13 ページの図 4-1 「HP RGS Desktop 製品のローカル ライセンス キーの取得」](#)は、[10 ページの「RGS 製品およびそのライセンス キーの取得」](#)からの続きです。
2. 必須のフィールドへの入力を完了します。
3. 新規ライセンス キーを生成するには、【Generate】（生成）をクリックします。
4. 『RGS License Key Certificate』（RGS ライセンス キー証明書）を電子メールで取得するには、このリンクをクリックします。この証明書を取得し、記録用に保管することをおすすめします。
5. RGS ローカル ライセンス キーをファイルに保存します。すべてのライセンス キー ファイルの拡張子は、.lic です。

ローカル ライセンス キー ファイルのインストール

ここでは、**HP RGS VDI** のローカル ライセンス キー ファイルと **HP RGS Desktop** および **HP RGS Trial Edition** のローカル ライセンス バージョンをインストールする方法について説明します。

ローカル ライセンス キー ファイルは、ライセンスされた各 RGS Sender コンピューターに保存する必要があります。

 **注記：** ローカル ライセンス キー ファイルは、RGS から RGS Sender への接続数が 0 から 1 に移行するときに必ず読み取りが行われ、チェックされます。接続数が 1 から 2 に移行する場合（共同作業の場合など）のように接続数がより多くなると、ローカル ライセンス キー ファイルの読み取りは行われません。

ローカル ライセンス キー ファイルにアクセスする Windows の RGS Sender の構成

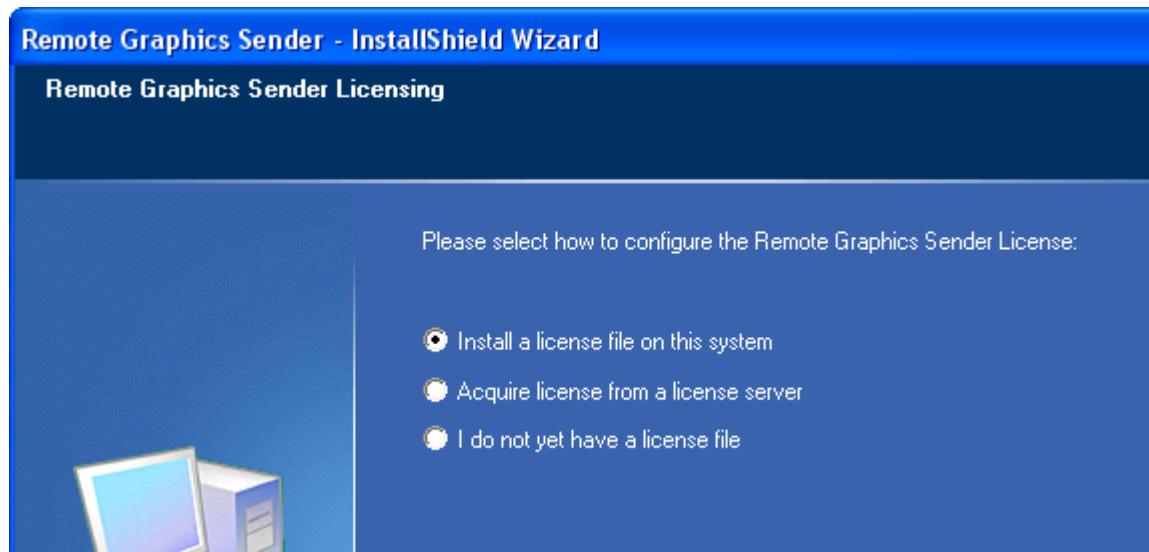
Windows の RGS Sender をローカル ライセンス キー ファイルにアクセスするように構成するには、RGS Sender をインストールするとき、または RGS Sender をインストールした後のどちらかでその処理を完了します。

RGS Sender のインストールするときの構成

RGS Sender をインストールするときに（『HP RGS ユーザー ガイド』に記載されているとおり）、[15 ページの図 4-2 「RGS Sender がこのコンピューターのライセンス キー ファイルにアクセスするよう指定するダイアログ」](#)に示されているダイアログが表示されます。ローカル ライセンスの

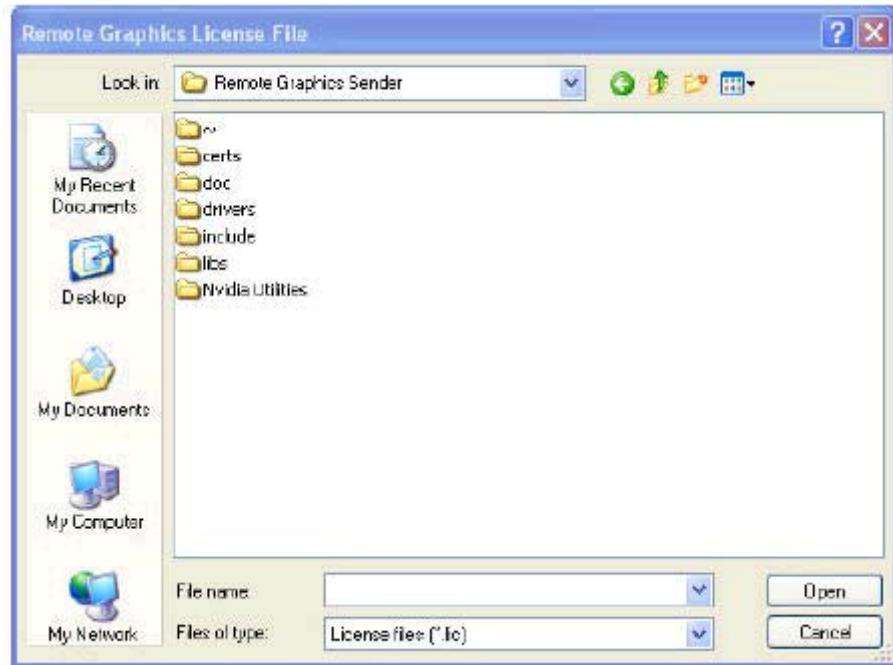
場合、[Install a license file on this system]（このシステムにライセンス ファイルをインストールする）を選択し、[次へ]をクリックします。

図 4-2 RGS Sender がこのコンピューターのライセンス キー ファイルにアクセスするよう指定するダイアログ



[次へ]をクリックすると、15 ページの図 4-3 「ローカル ライセンス キー ファイルの場所と名前の入力に使用するダイアログ」に示すように、ローカル ライセンス キー ファイルの保存場所と名前を入力するよう求めるダイアログが表示されます。ライセンス キー ファイルの末尾は、.lic の拡張子になっている必要があります。

図 4-3 ローカル ライセンス キー ファイルの場所と名前の入力に使用するダイアログ



ライセンス キー ファイルは、Remote Graphics Sender のインストール ディレクトリとして指定される、以下の場所からコピーされます。

- 32 ビット版 Windows システムの場合 :

C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender

- 64 ビット版 Windows システムの場合 :

C:\Program Files (x86)\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender

 **注記 :** RGS Sender インストーラーによって、[15 ページの図 4-3 「ローカル ライセンス キー ファイルの場所と名前の入力に使用するダイアログ」](#)で指定した場所からオペレーティング システムの Remote Graphics Sender のインストール ディレクトリにライセンス キー ファイルがコピーされます。ライセンス登録メカニズムによって、このライセンス キー ファイル フォルダーが検索されます。したがって、ライセンス キー ファイルの場所を更新した場合は、ライセンス登録メカニズムによって更新されたファイルが認識されることはありません。ライセンス登録メカニズムによって検索されるのは、ライセンス キー ファイル フォルダー内のライセンス キー ファイルのみであるためです。[16 ページの「Sender インストール後の構成」](#)を参照してください。

Sender インストール後の構成

RGS をインストールするときに、[15 ページの図 4-2 「RGS Sender がこのコンピューターのライセンス キー ファイルにアクセスするよう指定するダイアログ」](#)で**[I do not yet have a license file]**（ライセンス ファイルを持っていない）を選択した場合は、インストール後に以下の 2 つの方法のどちらかによってライセンス キー ファイルの場所を指定できます。

1. インストール後にライセンス キー ファイルの場所を指定する 1 つ目の方法は、ライセンス ファイルを Remote Graphics Sender のインストール ディレクトリにコピーする方法です。

- 32 ビット版 Windows システムの場合 :

C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender

- 64 ビット版 Windows システムの場合 :

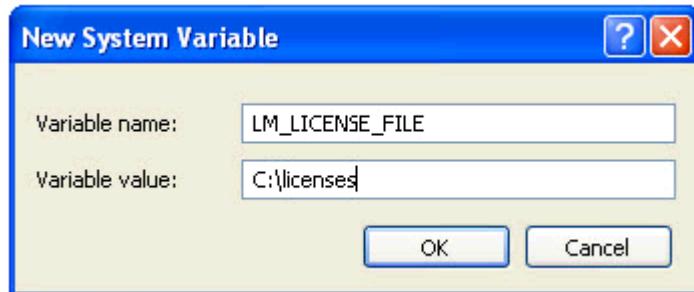
C:\Program Files (x86)\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender

2. インストール後にライセンス キー ファイルの場所を指定する 2 つ目の方法は、環境変数 LM_LICENSE_FILE を使用する方法です。この環境変数を設定するには、以下の操作を行って、[スタート]メニューから[システムのプロパティ]ダイアログを表示します。

[スタート]→[コントロール パネル]→[システム]

[詳細設定]タブを選択し、[環境変数]をクリックします。[システム変数]で[新規]をクリックすると、[17 ページの図 4-4 「システム変数 LM_LICENSE_FILE の設定」](#)で示した[新しいシステム変数]ダイアログが表示されます。

図 4-4 システム変数 LM_LICENSE_FILE の設定



ローカル ライセンス キー ファイルのパスを入力します。複数のパスを入力する場合は、次のようにセミコロンで区切って入力できます。

C:\licenses;C:\backuplicenses

RGS Sender によって、有効なローカル ライセンス キー ファイルが含まれているフォルダーが見つかるまで、フォルダーが左から右へと順に 1 つずつ確認されます。

注記： RGS Sender をインストールするときにライセンス キー ファイルを指定した場合、およびライセンス キー ファイルが検出された場合は、お使いのオペレーティング システムに応じて、そのライセンス キー ファイルが C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender または C:\Program Files (x86)\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender フォルダーにコピーされます。環境変数 LM_LICENSE_FILE によって指定したフォルダーで検出されたライセンス キー ファイルはコピーされません。これらのライセンス キー ファイルは、配置されている場所から読み込まれます。

RGS Sender をインストールするときにライセンス キー ファイルの場所を指定し、さらに環境変数 LM_LICENSE_FILE でも指定した場合は、有効なローカル ライセンス キー ファイルが RGS Sender の起動時に両方の場所で検索されます。Sender では最初に、LM_LICENSE_FILE によって指定されている場所を検索します。有効なライセンスが見つからなかった場合は、次に C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender または C:\Program Files (x86)\Hewlett-Packard\Remote Graphics Sender フォルダーで有効なライセンスを検索します。

ローカル ライセンス キー ファイルにアクセスする Linux の RGS Sender の構成

Linux RGS Sender でローカル ライセンス キー ファイルを検出するには、ローカル ライセンス キー ファイルが RGS Sender の以下のディレクトリに保存されている必要があります。

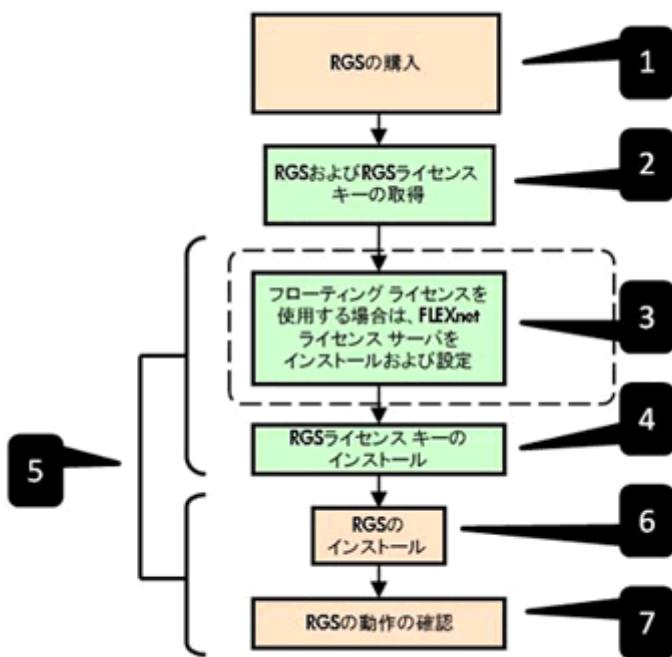
/etc/opt/hpremote/rgsSender

5 HP RGS フローティング ライセンス製品

RGS フローティング ライセンス製品のインストールおよびライセンス取得のために推奨される手順を [19 ページの図 5-1 「RGS のインストールおよびライセンス取得のための手順」](#) に示します。

このガイドでは、緑色で示された手順について説明します。この手順は、異なる順序で行うことができます。たとえば、以下に示すように、ライセンスのインストールと RGS のインストールの順序を逆にできます。なお、図中の番号部分については、図の下のそれぞれの番号の説明を参照してください。

図 5-1 RGS のインストールおよびライセンス取得のための手順



RGS のインストール手順の概要 :

1. RGS を注文します。
2. RGS および RGS ライセンス キーを取得します。詳しくは、[7 ページの「HP RGS Trial Edition」](#) または [10 ページの「RGS 製品およびそのライセンス キーの取得」](#) を参照してください。
3. フローティング ライセンスを使用する場合で、FLEXnet ライセンス サーバーをまだセットアップしていない場合は、FLEXnet ライセンス サーバーのインストールおよび設定を行います。
4. RGS ライセンス キーをインストールします。

5  **注記 :** これらの 2 つの手順は、順序を逆にできます。最初に RGS をインストールし、その動作を確認してから（ただし、[2 ページの図 1-2 「RGS Sender がライセンス登録されていない場合に生成されるダイアログ」](#) に示すポップアップ ダイアログが表示されます）、FLEXnet ライセンス サーバー（必要な場合）とライセンス キーをインストールできます。ライセンス キーがインストールされると、このポップアップ ダイアログは表示されなくなります。

ここで示した順序の利点は、RGS のインストールするときに必要なライセンス情報を確認し、入力できることです。

6. RGS をインストールします。RGS のインストールについては、『HP RGS ユーザー ガイド』を参照してください。

 **注記 :** 『HP RGS ユーザー ガイド』は RGS に付属しています。また、<http://www.hp.com/go/rgs/> から入手することもできます。Web 版の『RGS ユーザー ガイド』は RGS に付属するバージョンよりも新しい場合があります。

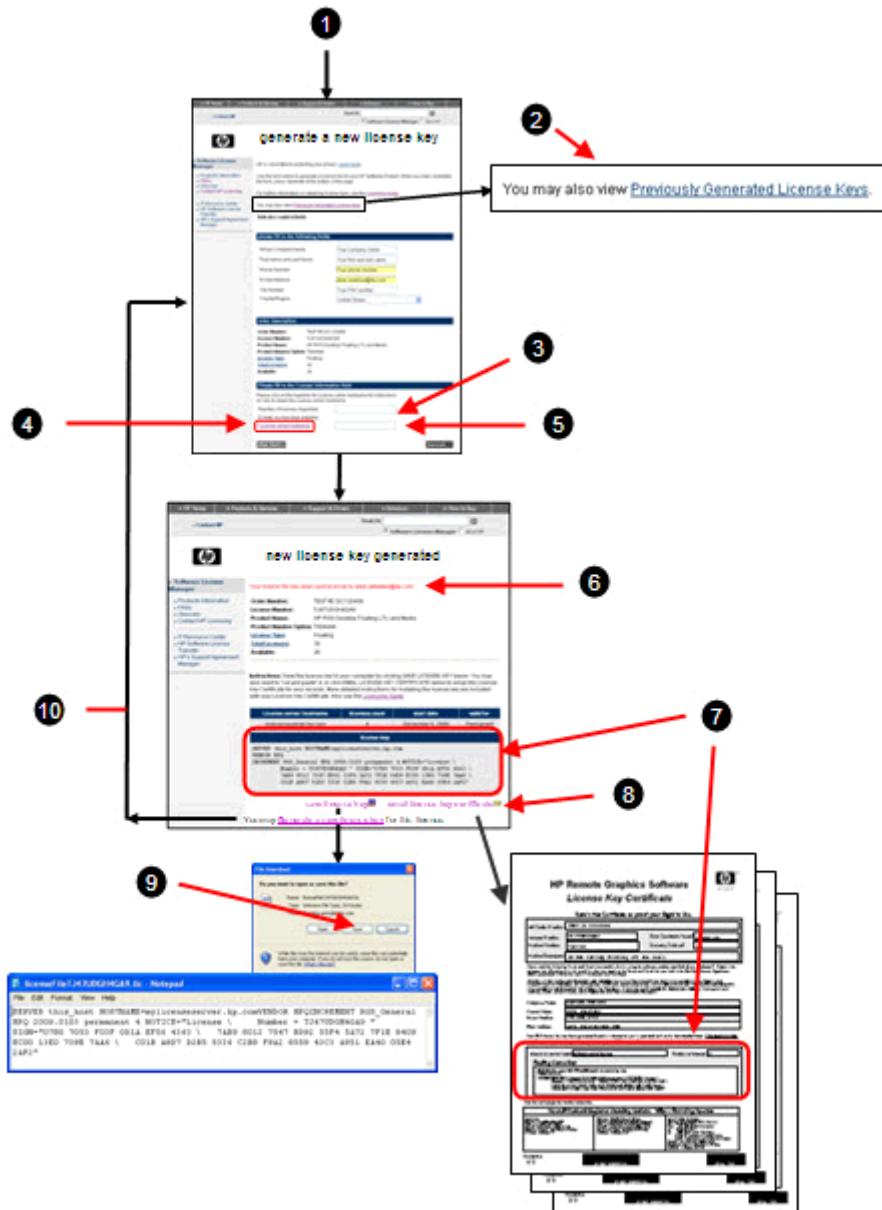
7. RGS の動作を確認します。『HP RGS ユーザー ガイド』を参照してください。

RGS フローティング ライセンス キーの取得

[21 ページの図 5-2 「フローティング ライセンス キーの取得」](#) に、RGS フローティング ライセンス キーを取得する手順を示します。この手順は、[10 ページの「RGS 製品およびそのライセンス](#)

[キーの取得](#)からの続きです。なお、図中の番号部分については、図の下のそれぞれの番号の説明を参照してください。

図 5-2 フローティング ライセンス キーの取得



RGS フローティング ライセンス キーを取得するには、以下の操作を行います。

1. 21 ページの図 5-2 「フローティング ライセンス キーの取得」は、10 ページの「RGS 製品およびそのライセンス キーの取得」からの続きです。
2. この購入に関連した 1 つ以上のライセンス キーを取得すると、以降の Web ページへのアクセスではこのリンクが表示されます。
3. 必要なフローティング ライセンスの数を入力します。

4. ライセンス サーバーのホスト名の指定に関する情報については、このリンクをクリックしてください。
5. ライセンス サーバーのホスト名を指定し、[Generate] (生成) をクリックします。
6. 以下の手順 8 に示す [email license key certificate] (ライセンス キー証明書を電子メールで取得する) をクリックすると、ライセンス キーの証明書が電子メールで送信されたことを示す通知が表示されます。
7. RGS フローティング ライセンス キーが、この Web ページに表示されます。また、このライセンス キーは、『RGS License Key Certificate』(RGS ライセンス キー証明書) にも記載されています。
8. 『RGS License Key Certificate』を電子メールで取得するには、このリンクをクリックします。この証明書を取得し、記録用に保管することをおすすめします。
9. RGS フローティング ライセンス キーをファイルに保存します。すべてのライセンス キー ファイルの拡張子は、.lic です。
10. 追加のライセンス キーを生成するには、この手順を繰り返します。

この RGS フローティング ライセンス キーは、FLEXnet サーバーの設定後にインストールされます。[22 ページの「FLEXnet ライセンス サーバーのインストールおよび構成」](#)に進みます。

FLEXnet ライセンス サーバーのインストールおよび構成

HP RGS Desktop のフローティング ライセンスを使用する場合にのみ、FLEXnet ライセンス サーバー（「ライセンス サーバー」）が必要になります。

ライセンス サーバーをインストールする前に

ここでは、FLEXnet ライセンス サーバーのインストールを計画するうえで役立つ情報を提供します。

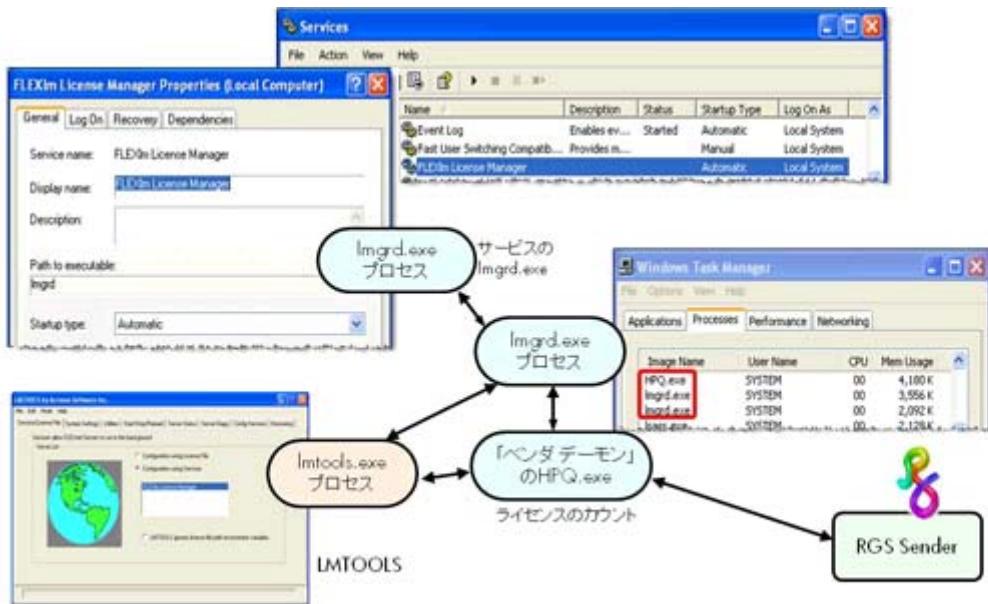
- RGS 製品には、32 ビット版 Windows 対応の FLEXnet ライセンス サーバーが付属しています。32 ビット版 Windows 対応のライセンス サーバーは、現行の Windows OS である Windows XP Professional、Windows XP Professional x64 Edition、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server にインストールできます。
- Linux 版の FLEXnet ライセンス サーバーは、HP から入手できます。Linux 版のサーバーが必要な場合は、HP の販売担当者にお問い合わせください。

 **注記：** RGS FLEXnet ライセンス サーバーは、Windows および Linux オペレーティング システムでのみ実行可能です。

- 通常、ライセンス サーバーは、RGS Sender を実行しているコンピューター以外のコンピューターにインストールします。ただし、RGS Sender のコンピューターにライセンス サーバーをインストールすることが禁止されているわけではありません。
- ライセンス サーバーの実行中は、[23 ページの図 5-3 「FLEXnet ライセンス サーバーに関する Windows プロセス」](#)の青色で示されているプロセスが実行されます。2 つのバージョンの lmgrd.exe が実行されますが、1 つはサービスとして実行されることに注意してください。サービスの lmgrd.exe プロセスが、2 番目の lmgrd.exe プロセスを生成します。Windows

Vista および Windows 7 のセキュリティ アーキテクチャでは、サービス内で実行されるプロセスが制限を受けるため、2 つの lmgrd.exe プロセスが必要になります。

図 5-3 FLEXnet ライセンス サーバーに関する Windows プロセス



FLEXnetライセンス サーバーのインストール先フォルダー: C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics FlexLM

注記: Linux FLEXnet ライセンス サーバーには、2 つのプロセス、lmgrd および HPQ が関連付けられます。

- 「ベンダーデーモン」の HPQ.exe は、RGS Sender へのインターフェースとして機能し、RGS フローティング ライセンスのカウントなど、ライセンス サーバー向けに HP 固有の機能を提供します。

注記: HP OpenViewなどの他の製品にも HPQ.exe という名前のベンダーデーモンが存在しますが、これらの異なる HPQ.exe 実行ファイルには、互換性はありません。さらに、ライセンスサーバー コンピューターで一度に実行できる HPQ.exe は 1 つのみです。したがって、1 台のコンピューターで、2 つの FLEXnet ライセンス サーバーを同時に実行することはできません。

- RGS ライセンスでは、FLEXnet の 3 サーバー冗長機能（トライアド ライセンス サーバーとも呼ばれます）はサポートされていません。
- ライセンス サーバーのインストール中に、FLEXnet 管理ユーティリティである LMTOOLS がインストールされます。LMTOOLS が提供するグラフィカル ユーザー インタフェースで、ライセンス サーバーを管理できます。LMTOOLS の使用については、次のセクションで説明します。

Windows のライセンス サーバーのインストール

ライセンス サーバーをインストールするには、以下の操作を行います。

1. RGS メディア ファイル ツリーの以下の場所で、FLEXnet のインストール実行ファイル、Setup.exe の場所を特定します。

```
win32 flexlm Setup.exe
```

2. Setup.exe ファイルをライセンス サーバーに移動します。

3. [Setup.exe]をダブルクリックして、ライセンス サーバーのインストールを開始します。必要に応じて、インストール先フォルダーを初期設定の C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics FlexLM とは異なるフォルダーに変更します。インストールが正常に終了すると、**InstallShield Wizard Complete** (InstallShield ウィザードの完了) を示すダイアログが表示されます。
4. 次に、ライセンス サーバーを Windows サービスとしてインストールする必要があります。これを行うには、[コマンド プロンプト]ウィンドウで、以下に示すオプションを使用して installs.exe コマンド (C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics FlexLM にあります) を実行します。

注記 : これらのオプションは、わかりやすくするために異なる行にわたって示されていますが、installs コマンドのオプションとして[コマンド プロンプト]ウィンドウの複数の行にまたがる場合でも、1 つのコマンドとして入力する必要があります。

フル パス名が必要であり、さらにパス名にスペースが含まれている場合は、パス名を二重引用符で囲む必要があります。

```
installs -e "C:\Program Files\Hewlett-Packard\Remote Graphics FlexLM
\lmgrd" -c C:\mylicenses\sample.lic -n "Myvendor License Manager"
```

- -e には、現在の場所が lmgrd.exe が配置されているディレクトリの場合であっても、lmgrd.exe ファイルのフル パス名が含まれている必要があります。パス名にスペースが含まれている場合は、パス名を二重引用符で囲む必要があります。
- -c には、ライセンス ファイルのフル パス名が含まれている必要があります。パス名にスペースが含まれている場合は、パス名を二重引用符で囲む必要があります。
- -n は、サービス アプレットで lmgrd.exe を識別するために使用する名前です。パス名にスペースが含まれている場合は、パス名を二重引用符で囲む必要があります。-n を指定しない場合は、サービス名として「FLEXnet License Manager」が使用されます。

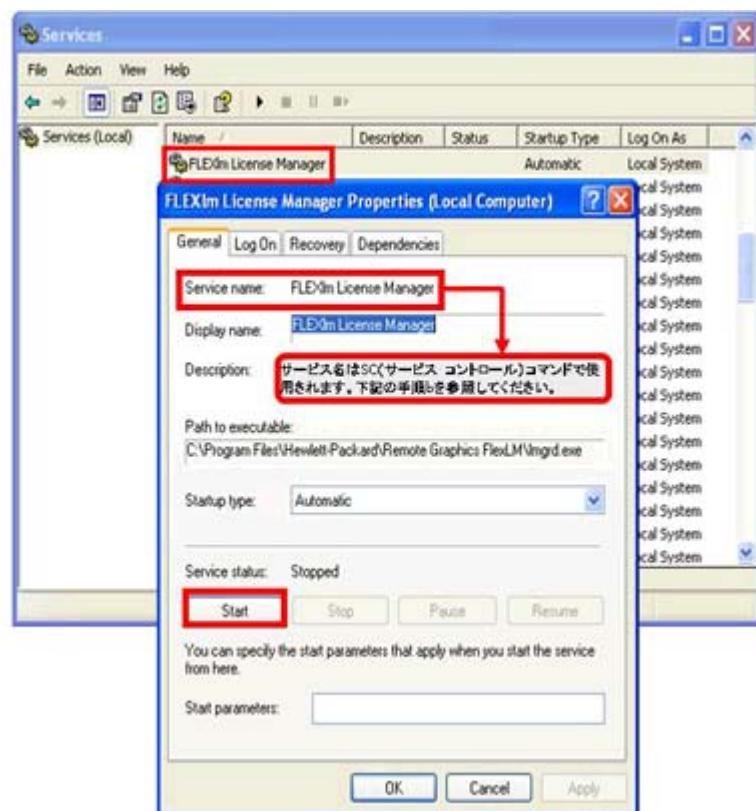
24 ページの図 5-4 「installs コマンドの例」に、installs コマンドの例を示します。コマンド プロンプトと installs コマンドを組み合わせた幅が[コマンド プロンプト]ウィンドウの幅よりも大きいため、コマンドが折り返され、複数行にわたって表示されています。

図 5-4 installs コマンドの例



5. ライセンス サーバーは、以下の 2 つの方法で起動および停止できます。
- a. Windows サービスの使用 : Windows の[コントロール パネル]を開き、[管理ツール]→[サービス]の順に選択して、[25 ページの図 5-5 「サービスのプロパティを示すダイアログは、ライセンス サーバーの起動および停止に使用できる」](#)に示すように[サービス]ダイアログを表示します。次に、installコマンドの-nオプションで指定した名前を使用して(-nオプションを使用しない場合、[25 ページの図 5-5 「サービスのプロパティを示すダイアログは、ライセンス サーバーの起動および停止に使用できる」](#)に示す初期設定の名前がサービスに使用されます)、ライセンス サーバー サービスのプロパティを表示するダイアログを開いて[開始]をクリックします。ライセンス サーバーはスタートアップの種類で「自動」を使用してインストールされるため、コンピューターを再起動したときにライセンス サーバーも起動します。ライセンス サーバーを停止するには、[停止]をクリックします。

図 5-5 サービスのプロパティを示すダイアログは、ライセンス サーバーの起動および停止に使用できる



- b. SC (サービス コントロール) コマンドの使用 :** [26 ページの図 5-6 「サービス コントロール コマンドを使用したライセンス サーバーの起動および停止」](#)に示すように、[コマンド ウィンドウ] ウィンドウで SC コマンドを使用してライセンス サーバーを起動および停止できます。[25 ページの図 5-5 「サービスのプロパティを示すダイアログは、ライセンス サーバーの起動および停止に使用できる」](#) のプロパティを示すダイアログに表示されるサービス名を SC コマンドで使用します。この例のサービス名では、初期設定の名前である「FLEXlm License Manager」を使用しています。installs -n コマンド オプションを使用してライセンス サーバー サービスの名前を指定すると、指定した名前がサービス名のダイアログに表示され、SC コマンドで使用されるようになります。サービス名にスペースが含まれる場合は、サービス名を二重引用符で囲む必要があります。

図 5-6 サービス コントロール コマンドを使用したライセンス サーバーの起動および停止

```

C:\>sc start "FLEXlm License Manager"
SERVICE_NAME: FLEXlm License Manager
    TYPE               : 10  WIN32_OWN_PROCESS
    STATE              : 4  RUNNING
                        <(STOPPABLE,NOT_PAUSABLE,ACCEPTS_SHUTDOWN>
    WIN32_EXIT_CODE    : 0  (0x0)
    SERVICE_EXIT_CODE : 0  (0x0)
    CHECKPOINT        : 0x0
    WAIT_HINT         : 0x0
    PID                : 2812
    FLAGS              :

C:\>sc stop "FLEXlm License Manager"
SERVICE_NAME: FLEXlm License Manager
    TYPE               : 10  WIN32_OWN_PROCESS
    STATE              : 3  STOP_PENDING
                        <(STOPPABLE,NOT_PAUSABLE,ACCEPTS_SHUTDOWN>
    WIN32_EXIT_CODE    : 0  (0x0)
    SERVICE_EXIT_CODE : 0  (0x0)
    CHECKPOINT        : 0x1
    WAIT_HINT         : 0xbb8
  
```

注記 : 前に説明したように、サービスの lmgrd.exe プロセスが、2 番目の lmgrd.exe プロセスを生成します。これらのプロセスを開始した場合にのみ、フローティング ライセンス キー ファイルの読み取りが行われます。ライセンス サーバーの起動後に行われたフローティング ライセンス キー ファイルの変更は表示されません。ライセンス サーバーでフローティング ライセンス キー ファイルの変更を表示するには、以下に説明するように、LMTOOLS を使用してライセンス キー ファイルの読み取りを再度行う必要があります。

- 6. lmgrd サービスを削除するには、以下の構文を使用します。**

```
installs -r -n "Myvendor License Manager"
```

- -n のサービス名は、インストール時に使用したサービス名と一致している必要があります。

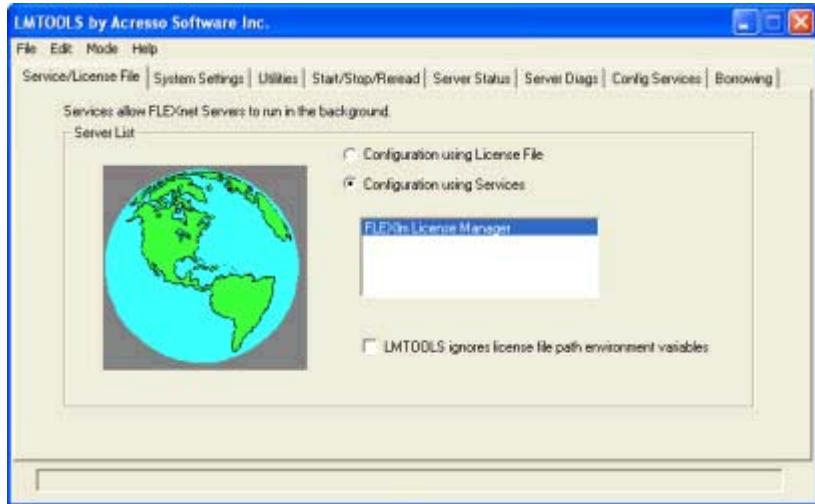
注記 : installs コマンドを使用すると、[コマンド プロンプト] ウィンドウに [To remove FLEXnet License Manager, type 'installs -r'] (FLEXnet License Manager を削除するには、「installs -r」を入力します) または [FLEXnet License Manager is already installed] (FLEXnet License Manager はすでにインストールされています) などのメッセージが表示されます。これらのメッセージはライセンス・マネージャー サービスのステータスに応じて表示されます。FLEXnet License Manager ファイルが物理的にインストールまたは削除されているかには関係しません。

7. LMTOOLS は、スタート メニューから以下の操作を行って実行できます。

[スタート]→[すべてのプログラム]→[HP Remote Graphics]→[lmtools]

これによって、[27 ページの図 5-7 「LMTOOLS インタフェース」](#)に示す LMTOOLS インタフェースが表示されます。

図 5-7 LMTOOLS インタフェース



LMTOOLS は、以下のようなタスクに使用されます。

- ライセンス サーバーの構成
- ライセンスの追加
- ライセンス ファイルの変更内容の再読み込み。この操作を行うには、[Start/Stop/Reread] ([起動/停止/再読み取り]) タブ→[ReRead License File] (ライセンス ファイルの再読み取り) の順にクリックします。
- ホスト ID などのシステム情報の表示とライセンス サーバーのステータスの表示
- ライセンス サーバーの問題のトラブルシューティング

注記： LMTOOLS には、[Start Server] (サーバーの起動) および[Stop Server] (サーバーの停止) ボタンが用意されていますが ([Start/Stop/Reread] タブ)、前に[25 ページのライセンス サーバーは、以下の 2 つの方法で起動および停止できます。](#) で説明した方法を使用してライセンス サーバーを起動および停止することをおすすめします。

ライセンス サーバーの構成

FLEXnet ライセンス サーバーの構成方法や管理方法についての説明は、このガイドの対象の範囲外です。このガイドでは、読者が FLEXnet ライセンス サーバーに精通していることを前提としています。FLEXnet ライセンス サーバーおよび lmtools ユーティリティについて詳しくは、Web サイト、<http://www.flexerasoftware.com/global/jp/> を参照してください。『License Administration Guide-FLEXnet Publisher Licensing Toolkit 11.6』(ライセンス管理ガイド:FLEXnet Publisher Licensing Toolkit 11.6) をダウンロードできます。

RGS フローティング ライセンスのアクセス

ここでは、RGS フローティング ライセンスにアクセスする方法を説明します。[22 ページの「FLEXnet ライセンス サーバーのインストールおよび構成」](#)に示されている手順にしたがって、FLEXnet Publisher ライセンス サーバー（「ライセンス サーバー」）がインストールされ、設定されていることを前提としています。フローティング ライセンス キー ファイルを取得してから、FLEXnet ライセンス サーバーの設定要件に従ってライセンス サーバーにファイルを保存します。

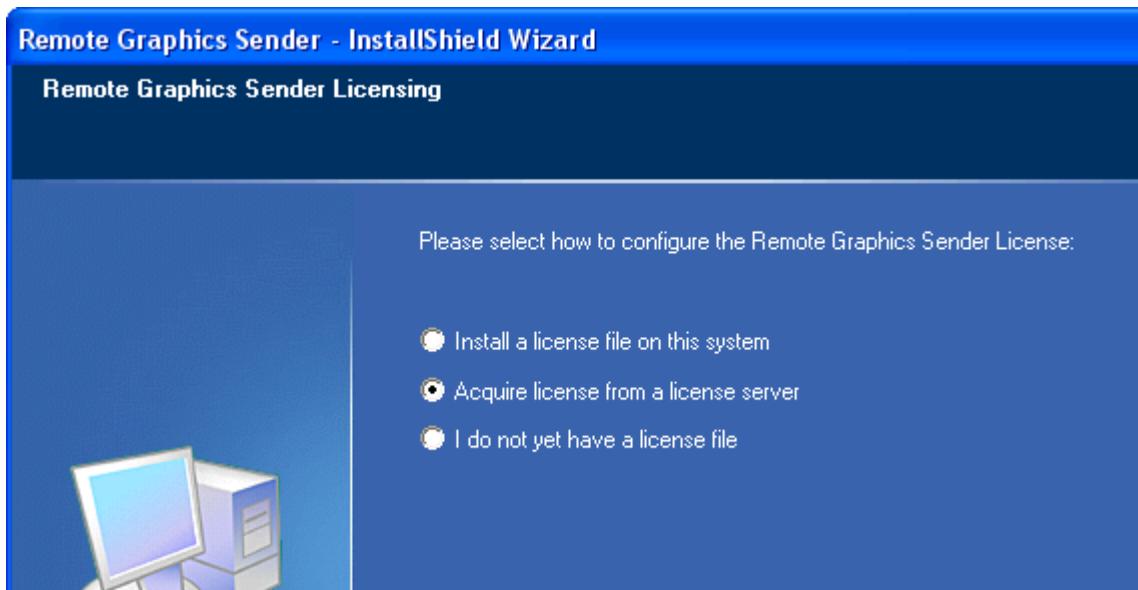
 **注記：** RGS フローティング ライセンス キーを取得するときに、ライセンス サーバーのホスト名を指定します。ライセンス キー ファイルに含まれる署名に、指定したそのホスト名が反映されます。ライセンス キー ファイルのホスト名を別のライセンス サーバーに変更すると、ライセンス キーが無効になります。ライセンス サーバーのホスト名の変更が必要な場合は、[6 ページの「質問またはサポートに関するお問い合わせ」](#)に記載されている HP リージョナル ライセンス センターにお問い合わせください。

フローティング ライセンスにアクセスする Windows の RGS Sender の構成

 **注記：** Windows RGS Sender をフローティング ライセンスにアクセスするように構成するには、Sender をインストールするとき、または RGS Sender をインストールした後のどちらかでその処理を完了します。ここでは、両方の方法を説明します。Sender をインストールするときの設定を最初に説明し、次にインストール後の設定を説明します。Sender のインストール後にライセンスの設定を実行する場合は、Sender のインストール中に行った設定がすべて上書きされます。

RGS Sender のインストール中に、(『HP Remote Graphics ソフトウェア ユーザー ガイド』) に記載されているとおり)、[15 ページの図 4-2 「RGS Sender がこのコンピューターのライセンス キー ファイルにアクセスするよう指定するダイアログ」](#)に示すダイアログが表示されます。[Acquire license from a license server] (ライセンス サーバーからライセンスを取得する) を選択し、[Next] (次へ) をクリックします。

図 5-8 フローティング ライセンスがライセンス サーバーから取得されるように指定するダイアログ



次に、ライセンス サーバーのポート番号およびホスト名を入力するように求めるメッセージが表示されます。これによって RGS Sender コンピューターは、ライセンス サーバーと通信できるようになります。ホスト名のみを入力した場合は、初期設定のポートである **27000** が使用されます。

図 5-9 ライセンス サーバーのホスト名およびポート番号（オプション）を入力するダイアログ



RGS をインストールするときに、[29 ページの図 5-8 「フローティング ライセンスがライセンス サーバーから取得されるように指定するダイアログ」](#)で [**I do not yet have a license file**]（ライセンス ファイルを持っていない）を選択した場合は、環境変数 `LM_LICENSE_FILE` を使用してインストール後の RGS ライセンス サーバーの場所を指定できます。この環境変数を設定するには、以下の操作を行って、[スタート]メニューから[システムのプロパティ]ダイアログを表示します。

[スタート]→[コントロール パネル]→[システム]

[詳細設定]タブを選択し、[環境変数]をクリックします。[システム変数]で[新規]をクリックすると、[30 ページの図 5-10 「システム変数 LM_LICENSE_FILE の設定」](#)で示した[新しいシステム変数]ダイアログが表示されます。

図 5-10 システム変数 LM_LICENSE_FILE の設定



LM_LICENSE_FILE の値は次のような形式です。portnumber@hostname

ポート番号を指定しない場合は、初期設定のポートである 27000 が使用されます。例：

@MyLicenseServer.hp.com (初期設定のポートである 27000 を使用) @15.2.21.129 (初期設定のポートである 27000 を使用) 27002@MyLicenseServer.hp.com

上記のダイアログで複数の portnumber@hostname 値を指定する場合は、以下のようにセミコロンで区切って入力します。

27000@15.232.16.2;@MyLicenseServer.hp.com;27002@BackupServer.hp.com

RGS Sender によって、有効な RGS ライセンスが含まれているライセンス サーバーが見つかるまで、指定されたライセンス サーバーが左から右へと順に 1 つずつ確認されます。

フローティング ライセンスにアクセスする Linux の RGS Sender の構成

Linux の RGS Sender でフローティング ライセンスにアクセスするよう構成するには、環境変数 LM_LICENSE_FILE で、RGS ライセンス サーバーを指定します。環境変数 LM_LICENSE_FILE の値は、以下のような形式です。

portnumber@hostname

ポート番号を指定しない場合は、初期設定のポートである 27000 が使用されます。例：

@MyLicenseServer.hp.com (初期設定のポートである 27000 を使用) @15.2.21.129 (初期設定のポートである 27000 を使用) 27002@MyLicenseServer.hp.com

環境変数 LM_LICENSE_FILE に、複数の portnumber@hostname 値を含める場合は、以下のようにセミコロンで区切って入力します。

27000@15.232.16.2:@MyLicenseServer.hp.com:27002@BackupServer.hp.com

Linux の完全なコマンドは、以下のようになります。

```
export LM_LICENSE_FILE=27000@15.232.16.2:@MyLicenseServer.hp.com:  
27002@BackupServer.hp.com
```

RGS Sender によって、有効な RGS ライセンスが含まれているライセンス サーバーが見つかるまで、指定されたライセンス サーバーが左から右へと順に 1 つずつ確認されます。

A 補足ライセンス情報

この付録では、ライセンス登録の問題のトラブルシューティングに役立つよう、RGS のライセンス登録に関する補足的な情報を記載しています。

RGS バージョン日付の参照

[5 ページの「リリースのバージョン日付」](#)に記載されているように、RGS Sender に組み込まれているバージョン日付は、RGS ライセンス登録メカニズムによって使用されます。RGS Sender のバージョン日付を参照するには、次の操作を行います。

1. バージョン日付は、RGS Sender ログ ファイル（初期設定のログ ファイルは `rg.log`）に記録されます。Sender によるログ出力を設定するには、http://www.hp.com/support/rgs_manuals/（英語サイト）から入手できる『HP Remote Graphics ソフトウェア ユーザー ガイド』の「Sender のログ」のセクションを参照してください。ログ出力のレベルは、INFO レベルのログ出力に設定する必要があります。
2. バージョン日付は、「License Version Date」という語句が含まれるログ ファイルの行に生成されます。RGS 5.3.0 では、バージョン日付のログ ファイル行は以下のようになります。

INFO - # License Version Date: 2009.0904

RGS Sender のログ

ライセンス登録の問題のデバッグに役立つように、RGS Sender では、ライセンス登録の失敗が Sender のログ ファイル (`rg.log`) に記録されます。このログ ファイルについて詳しくは、『RGS ユーザー ガイド』の「Sender のログ」のセクションを参照してください。RGS Sender がライセンス登録（ローカルまたはフローティングのどちらか）に失敗した場合は、文字列「FlexLM」を含む項目が Sender のログ ファイルに追加されます。その項目の残りの部分は、RGS ライセンスにアクセスするために RGS Sender が使用する検索パスを示します。ローカル ライセンスの場合、検索パスの項目は、RGS Sender によって検索されるライセンス キー ファイルの場所です ([14 ページの「ローカルライセンス キー ファイルのインストール」](#) を参照してください)。フローティング ライセンスの場合、検索パスの項目は、ライセンス サーバーにアクセスするために RGS Sender が使用するポート番号/ホスト名です ([28 ページの「RGS フローティング ライセンスのアクセス」](#) を参照してください)。

ただし、どちらの場合でも、`rg.log` の項目は、ライセンス登録に失敗した特定の原因を識別するものではありません。ローカル ライセンスの場合、RGS ライセンス キー ファイルの検出の失敗は、無効なライセンスを含む RGS ライセンス キー ファイルの検出と区別されません。同様に、フローティング ライセンスの場合でも、ライセンス サーバーへのアクセスの失敗は、無効な RGS ライセンスを含むライセンス サーバーへのアクセスと区別されません。

B RGS 用 FlexLM ライセンス サーバーの レジストリ参照のクリーニング

この付録では、Microsoft Windows レジストリから FlexLM の参照を削除する方法に関して、補足的な情報を提供します。

FlexLM ライセンス サーバー キー

△ 注意： 変更を加える前にレジストリのバックアップを作成してください。詳しくは Microsoft 社のドキュメントを参照してください。

RGS とともに FlexLM ライセンス サーバーを使用する場合は、FlexLM ライブラリによってライセンス サーバーの情報が以下のレジストリ キーに追加されます。

☞ 注記： 以下のすべてのキーが必ずレジストリに存在するとは限りません。

```
HKLM\Software\FLEXlm License Manager\HPQ_LICENSE_FILE  
HKLM\System\ControlSet001\Control\Session Manager\Environment  
    \LM_LICENSE_FILE  
HKLM\System\ControlSet001\Control\Session Manager\Environment  
    \HPQ_LICENSE_FILE  
HKLM\System\ControlSet002\Control\Session Manager\Environment  
    \LM_LICENSE_FILE  
HKLM\System\ControlSet002\Control\Session Manager\Environment  
    \HPQ_LICENSE_FILE  
HKEY_USERS\.DEFAULT\Software\FLEXlm License Manager\LM_LICENSE_FILE
```

場合によっては、FlexLM によって他のレジストリ エントリが使用されることがあります。これらを見つけるには、「LM_LICENSE_FILE」または「HPQ_LICENSE_FILE」のどちらかの名前を持つレジストリを検索する必要があります。これらのキーの値は、環境変数によって指定されているライセンス サーバーのパスです。これらの値と設定方法について詳しくは、[28 ページの「フローティング ライセンスにアクセスする Windows の RGS Sender の構成」セクション](#)を参照してください。

⚠ 注意 : 「LM_LICENSE_FILE」という名前のレジストリ キーは、システムの FlexLM ライセンス サーバーにアクセスする任意のアプリケーションによって使用される場合があります。RGS に加えて他のアプリケーションが FlexLM ライセンス サーバーを使用している場合、これらのアプリケーションは、LM_LICENSE_FILE レジストリ エントリに加えられた変更によって悪影響を受ける場合があります。「HPQ_LICENSE_FILE」という名前のレジストリ キーは、FlexLM ライセンス サーバーにアクセスする HP アプリケーションによって使用される場合があります。RGS に加えて他の HP アプリケーションが FlexLM ライセンス サーバーを使用している場合、これらのアプリケーションは、HPQ_LICENSE_FILE レジストリ エントリに加えられた変更によって悪影響を受ける場合があります。